

インターナショナル・フォスターケア・アライアンスの [IFCA] ヒストリー

IFCA は、以下の3つの領域で活動を展開しています。

- I. **ユース (社会的養護の当事者)**
- II. **ケアギバー (養育者)**
- III. **プロフェッショナル (児童福祉の専門職)**

2014年

I. ユース (社会的養護の当事者)

- 2013年から開始したIFCAのユースプロジェクトでは、様々な理由で生みの親とともに暮らせず、施設や里親家庭で育った若者たち12名で、日米ユースチームを結成している。今年も継続して活動し、発展を見せることができた。
- 東京ユースは、子どもの権利についてのイベントを開催 2014年4月20日、日本財団ビルにて「子どもの権利って？日米のフォスターユースと考える」を実施。東京ユースが発表をし、専門家とディスカッションを交わした。児童福祉関係者らが参加。シアトルユースは人権についてのビデオを制作し、イベント内で上映した。
- 6月、東京ユースが渡米5名の東京ユースが約10日間の渡米視察を実施。5つのユース向け機関を視察し、学んだ。初の「日米ユースサミット in シアトル」を開催、また、『ストラテジック・シェアリング』のワークショップも実施した。終盤には、山荘で合宿をし、自分たちのミッションを作り上げた。
- 9月、シアトルユースが来日シアトルユース4名は、児童養護施設や乳児院、児童自立支援施設を含む、4都市8機関をまわった。厚労省での記者会見、2つのユースサミットの実施、ISPCAN子ども虐待防止世界大会への参加をした。加えて、里親や施設職員、議員、研究者らと交流もおこなった。彼らのエッセイや、渡航の感想文からは、彼らの個人的なめざましい成長が感じられた。また、プロジェクトを通じ、両国のフォスターユースたちの関係を近づけることができた。彼らは今後も「ユースたちがグローバルに児童福祉を変革する」という自分たちのミッションに向かって進んでゆく。

II. ケアギバー (子どもたちの日々の養育にあたる人たち)

2013年に結成されたモッキンバード・ファミリー・モデル・ジャパン (MFM-J) という勉強会との連携を続けている。それを通じて、モッキンバード・ファミリー・モデル (MFM) に関する英語のマニュアルが翻訳された。その後はモッキンバード・ファミリー・モデルのパイロットプロジェクトを日本で実施するための委員会の設立に向けて活動している。

III. プロフェッショナルズ (児童福祉の仕事にたずさわる人たち)

白川美也子氏 (IFCA 臨床ディレクター) とモニカ・フィッツジェラルド氏 (コロラド大学ケンペンター) は9月、日米ユースメンバーとともに、ISPCAN子ども虐待防止世界大会名古屋にてワークショップをおこなった。ユースのメンタルヘルスの必要性について訴えた発表は好評を博した。また、フィッツジェラルド氏は同月に3日間にわたるTF-CBT (トラウマフォーカスト認知行動療法) ワークショップを43人

の臨床心理士や児童精神科医に向けて実施。受講者の中には、日頃から児童相談所などでフォスターケアの子どもを診ている者も多くいた。受講者たちは、フィッツジェラルド氏によるオンラインでのコンサルテーションを受け始めている。

2015年

I. ユース（社会的養護の当事者）

IFCAのユース・プログラムにとって、2015年もたいへん意義深い充実した年でした。東京とシアトルのメンバーたちが、年間を通じて、6つのグローバルな企画に参加しています。

- 3月後半。3名の米国ユースたちが、理事と顧問とともに来日し、静岡の「[ふじ虹の会](#)」と福岡の「[SOS子どもの村 Japan](#)」の主催によるイベントの基調講演をし、シンポジウムを行いました。
- 6月の中旬。日本ユースチームのアダルト・サポーターがロンドンに渡り、第1回目の“国際ストーリーユース会議”に参加し、日本からのたった一人の代表として発表しました。
- 7月。4名の日本ユースたちが渡米し、米国ユースチームとともに、第2回目の“ユース・サミット”を行いました。この10日間の旅のあいだに、日本ユースチームのメンバーは、5つの自立支援機関を視察するとともに、地域の社会的養護の当事者たちとも交流、意見交換の機会を持ちました。裁判所でのヒアリングを体験した後、インディアン児童福祉事務所で、半日かけて、ワシントン州と米国の児童福祉のシステムについて学びました。また、モッキンバード・ソサエティのユースたちとも会議をし、若者の権利についてくわしい法律家とも情報交換することができました。カミノ・アイランドでの2日間の合宿で、日米のユースたちは、自らのビジョンの見直しをし、チームづくりと、リーダーシップの訓練を行いました。
- また、7月には、日米ユースチームの中から4名のユースたちが、ボストンで開催された全米児童虐待防止学会（APSAC）の全国大会に参加し、メンタルヘルスの専門家とともに、プレゼンテーションを行いました。
- 9月に行われた、米国ユースたちの来日プロジェクトには、4名のユースが参加しました。10日の行程のなかで、東京では、5つの児童福祉の機関を視察し、その4箇所で、スタッフや地域ユースたちとの交流や情報交換がありました。[日本子ども家庭福祉学会](#)の主催で半日のイベントを行いました。このプログラムのスポンサーである[TOMODACHI イニシアチブ](#)は、IFCAの東京での第2回目の“ユース・サミット”で協働しました。TOMODACHIの協力により、被災地である福島の子どもの養護施設のユースたちもサミットに招待することが実現しました。
- 11月には、米国ユースチームのメンバーが一名、ブエノスアイレス（アルゼンチンの首都）に向かい、ユニセフとDoncelの共催による、第1回目のフォスターユース世界大会に参加しました。

ユースたちが東京やシアトルのイベントで、また渡米・来日プロジェクト後のレポートの中で伝えたのは、この2015年のIFCAの活動が、自分の内面の成長にひじょうに大きく、そしてポジティブにかかわっていること、そして、海を挟んだ二つの国の仲間たちの友情と絆が深まったと感じたことでした。日米のチームは、[IFCAのユースブログ](#)や、アドボカシーなどのコアプロジェクトにおいても、協働してきました。厚生労働省への日本チームの『要望書』の提出は、かれらのアドボカシー活動の成果です。チームメンバーたちは、日米両国で、自らの声（ユースボイス）をつかって社会的養護についての啓発を行い、「ユースたちが協働して、グローバルな児童福祉の変革を目指す」というチームのミッションに、近くことができたと実感しました。

II. ケアギバー（子どもたちの日々の養育にあたる人たち）

2015年は、日本で要保護児童を大舎型の施設から家庭的な環境に移す努力が進む中で、IFCAは米国から、里親開拓や、里親維持・支援についての最新情報を積極的に提供しました。また、米国の非営利団体が開発したモッキンバード・ファミリーモデルという画期的な里親連携型の養育者支援方法を日本に導入し、最初のパイロット・プロジェクトを立ち上げる準備を整えました。以下がその活動の詳細です。

- 3月、IFCA理事のジア・マッキンジーは、東京の日本財団ビルで、里親のリクルートと維持にかんするセミナーを行ないました。
- 春から夏にかけての数ヶ月、日本女子大学の和泉広恵准教授とIFCA代表理事の栗津美穂が、[モッキンバード・ファミリーモデル](#)についての、とくにコンステレーション立ち上げについて詳しく学ぶため、ディゲール・クーパー氏（ファミリープログラム・ディレクター）の指導のもとに、ピアース郡の様々なステークホルダーたちとの会議に加わりました。

IV. プロフェSSIONALズ（児童福祉の仕事にたずさわる人たち）

2015年、IFCAはアメリカで最も優れた子どものためのトラウマ治療法である、[トラウマフォーカスト認知行動（TF-CBT）](#)を日本に広める活動を前年よりさらに拡充しました。モニカ・フィッツジェラルド博士が指導した2012年から2014年までの日本の臨床心理士たちは、オンラインで継続コンサルテーションが受けられるようにとりはからいました。その他にも以下の活動を展開しました。

- 5月と7月、IFCAのメディカル・ディレクター白川美也子先生（精神科医・臨床心理士）による2日間イントロダクトリーTF-CBT講座を開催し、約80名の方たちが参加しました。
- 9月、TF-CBTの開発者のひとりで、エスター・デブリンジャー博士が80名の日本の心理士たちのために、アドバンス・ワークを終日行いました。
- さらに、2015年4月には、IFCAがその最初の“メンタルヘルス・フォーラム”を開催し、AF-CBT（Alternatives for Families Cognitive-Behavioral Therapy 家族のための代替案認知行動療法）やPCIT（Parent-Child Interaction Therapy 親子相互交流療法）などの療法を日本に導入した専門家たちと共に、ユースを含めたIFCAのメンバーたちによるプレゼンテーションを行いました。

2016年

I. ユース（社会的養護の当事者）

- 3月後半、4名の米国ユースたちが、理事と顧問とともに来日し、静岡の「[ふじ虹の会](#)」と福岡の「[SOS子どもの村 Japan](#)」の主催によるイベントの基調講演をし、シンポジウムを行いました。
- 7月、6名の日本ユースたちが渡米し、米国ユースチームとともに、第1回目の“国際児童福祉合同勉強会”を行いました。この10日間の旅のあいだに、日本ユースチームのメンバーは、5つの自立支援機関を視察するとともに、地域の社会的養護の当事者たちとも交流、意見交換の機会を持ちました。裁判所でのヒアリングを体験した後、インディアン児童福祉事務所で、半日かけて、ワシントン州と米国の児童福祉のシステムについて学びました。また、モッキンバード・ソサエティのユースたちとも会議をし、若者の権利についてくわしい法律家とも情報交換することができました。カミノ・

アイランドでの2日間の合宿で、日米のユースたちは、自らのビジョンの見直しをし、チームづくりと、リーダーシップの訓練を行いました。

- 8月には、IFCAの米国メンバー3名が、ISPCAN（国際児童虐待防止学会）が、カナダのカルガリーで開催された学術会議に参加し、エイミー・サラザー博士とともに、“トラウマ・インフォームド・ケア”と社会的養護について、90分間のワークショップを行いました。
- 9月には、IFCA米国チームのメンバー6名が来日し、10日間の行程の中でさまざまな活動を行いました。富士市での「ふじ虹の会」との合同イベント。児童養護施設の視察研修。東京都中央児童相談所の職員のための研修。そして、第3回 日米ユースサミットの他にも、「社会的養護における、当事者参画」のイベントを開催しました。
- 11月。日本ユースチームのメンバー2名が、厚生労働省の「新たな社会的養育の在り方に関する検討会」の主催するヒアリングで、登壇しました。当事者の置かれている環境や、ケアを離れる移行期の困難さについて語り、提言書を提出しました。

今年も、日米のユースチームは、[IFCAのユースブログ](#)や、アドボカシーなどのコアプロジェクトにおいても、協働しました。厚生労働省への日本チームの『提言書』は、来年度の日本政府の国連レポートのカウンターレポートの添付書類として、使用されることになりました。国連へ向けたカウンターレポートに社会的養護の当事者の声もりこまれるのは、これが初めてです。

II. ケアギバー（子どもたちの日々の養育にあたる人たち）

2016年は、日本で要保護児童を大舎型の施設から家庭的な環境に移す努力が進む中で、IFCAは米国から、里親開拓や、里親維持・支援についての最新情報を積極的に提供しました。また、米国の非営利団体が開発したモッキンバード・ファミリーモデルという画期的な里親連携型の養育者支援方法を日本に導入し、最初のパイロット・プロジェクトを立ち上げる準備を整えました。以下がその活動の詳細です。

モッキンバードファミリーモデルそのための第一段階として2016年4月、この事業を推進するための実行委員会を立ち上げ、年度内に主に2つのプロジェクトを実施することを目標に掲げました。第一に、モッキンバード・ソサエティの代表を含む3名を日本に招聘し、モデルの効果などについて日本の里親養育関係者と議論を重ね、実施に向けての準備を図ること。第二に、各地方自治体にモデルの導入の準備を呼びかけ、パイロットプロジェクトとしてモデルの構築を検討してもらうことでした。

III. プロフェッショナルズ（児童福祉の仕事にたずさわる人たち）

2016年、IFCAはアメリカで最も優れた子どものためのトラウマ治療法である、[トラウマフォーカスト認知行動（TF-CBT）](#)を日本に広める活動を前年よりさらに拡充しました。モニカ・フィッツジェラルド博士が指導した2012年から2015年までの日本の臨床心理士たちは、オンラインで継続コンサルテーションが受けられるようにとりはからいました。その他にも以下の活動を展開しました。

2月：東京にて、モニカ・フィッツジェラルド博士による3日間のTF-CBT基本講習がありました。40名の心理士が受講しました。

4月：東京にて、シャノン・ダーシー博士による3日間のTF-CBT基本講習がありました。40名の心理士が受講しました。

さらに、4月には、IFCAがその最初の“メンタルヘルス・フォーラム”を開催し、AF-CBT (Alternatives for Families Cognitive-Behavioral Therapy 家族のための代替案認知行動療法) や PCIT (Parent-Child Interaction Therapy 親子相互交流療法) などの療法を日本に導入した専門家たちと共に、ユースを含めたIFCAのメンバーたちによるプレゼンテーションを行いました。

2017年

III. ユース (社会的養護の当事者)

- 2月。日本ユースチームが例年のように合宿をし、新しい目標を立てました。同月、東京で、初めての「ストラテジック・シェアリング」のワークショップを実施しました。米国に4名、日本に5名の新しいユースが入団しました。
- 3月。アメリカの理事とユースメンバーが、富士市、京都市、北九州市、福岡市、そして東京でイベントを開催しました。
- 7月。ユースパブリケーション5号「社会的養護におけるユース参画」特集号を発行しました。
- 7月。6名の日本ユースたちが渡米し、米国ユースチームとともに、第2回目の“国際児童福祉合同勉強会”を行いました。この10日間の旅のあいだに、日本ユースチームのメンバーは、児童福祉機関を視察するとともに、地域の社会的養護の当事者たちとも交流、意見交換の機会を持ちました。カミノ・アイランドでの2日間の合宿で、日米のユースたちは、自らのビジョンの見直しをし、チームづくりと、リーダーシップの訓練を行いました。
- 9月に行われた、米国ユースたちの来日プロジェクトには、6名のユースが参加しました。10日の行程は、TOMODACHI Generation Summit 2017へのチーム全員での参加で始まりました。東京を中心に、児童福祉の機関を視察し、その2箇所で、スタッフや地域ユースたちとの交流や情報交換がありました。千葉県と東京都世田谷区の里親会との交流会の場でも、ユースたちが「ノーマルシー」について発表する機会がありました。このプログラムのスポンサーである [TOMODACHI イニシアチブ](#)は、IFCAの東京での第4回目の“ユース・サミット”で協働しました。立川市の児童相談所の所長、そして三多摩地区の施設職員を対象に、米国ユースたちがトレーニングを実施しました。
- 10月と11月には、2度にわけて、東京のユースチームが神奈川県の子童相談所の職員のトレーニングを行いました。
- 12月に千葉市で開催された「日本子ども虐待防止学会」に、団体代表と米国顧問が参加。日本のユースたちとともに、「当事者参画」についてのワークショップを行いました。

IV. ケアギバー (子どもたちの日々の養育にあたる人たち)

- 6月に「里親家庭を活用した子育て支援の仕組みについて考える勉強会」を開始し、年内に5回の勉強会を開催しました。
- モッキンバードファミリーモデル事業実行委員会は、メンバー同士の会議を継続して実施しました。

III. プロフェSSIONナルズ（児童福祉の仕事にたずさわる人たち）

2月と3月：佐賀県にて、モニカ・フィッツジェラルド博士による3日間のTF-CBT基本講習がありました。50名の心理士が受講しました。東京では、中央児童相談所の職員の2日間の講習を職員30名を対象に、実施しました。

4月と5月：東京にて、デイビッド・ホング博士による2日間のTF-CBTアドバンス講座が80名の心理士が受講しました。ホング博士はそのあと札幌で40名の心理士を対象に、TF-CBT基本講習をしました。

昨年に引き続き、日本の臨床心理士たちは2017年度も、オンラインで継続コンサルテーションを受けました。2017年、5面目を迎えるIFCAのアメリカ人専門講師によるTF-CBT基本講習を受けた日本の臨床心理士の数は400名を超えました。

IFCA のインパクト（2012年から2017年までの5年間）

- ❖ 1年に平均20回のイベントを開催 5年間で合計100回
- ❖ IFCAの開催したイベント参加者は4500人を超えた
- ❖ メディア報道：30ほどの新聞と雑誌にIFCAの活動がとりあげられた。ビデオ作品もつくられるほか、やテレビ・ラジオ番組にも出演
- ❖ 41通のオンラインニュースレターを配信した
- ❖ 9つの冊子の発行
- ❖ ユース・プログラムの受益者が32名に
- ❖ 400名の日本の臨床心理士が、IFCAのアメリカ人専門講師によるTF-CBT基本講習を受けた
- ❖ トラウマの症状をもつ2000人以上の子どもたちが、これらの心理士からサービスをうけたことが想定される
- ❖ IFCAのフェイスブックページには809の“いいね！”が記録される
- ❖ IFCAのメーリングリストには、1134名のメンバーが登録している

IFCAの事業パートナー

TOMODACHI イニシアチブ
ふじ虹の会
SOS子どもの村Japan
子どもNPOセンター福岡

里親子支援のアン基金プロジェクト

全国里親会

千葉県里親会

日本子ども家庭福祉学会

日本女子大学

静岡大学

児童養護施設福島愛育園

FosterClub

Mockingbird Society

Casey Family Programs

Foster Care Alumni of America

University of Washington Champions Program

Passion to Action

Doncel

American Professional Society for the Abuse of Children

CARES INSTITUTE

Monica Fitzgerald, Ph. D. - University of Colorado

Shannon Dorsey, Ph. D. - University of Washington

IFCA の事業スポンサー

TOMODACHI イニシアチブ

日本財団

国際交流基金

つなぐいのち基金

読売愛と光の事業団

KEN 三軒茶屋

日本子ども虐待防止学会

社会福祉法人二葉保育園

特定非営利活動団体 子どもデザイン教室

リビング・ドリームス

マッシーナメッシーナ

American Bar Association Commission on Homelessness and Poverty

UNICEF Argentina

International Society for the Prevention of Child Abuse [ISPCAN]

Morello